

# 理事長室だより

第3号

平成十五年九月その一

鹿児島陸上競技協会 発行

## 前期の業績

理事長 妻鹿 功

残暑も見舞い上げます。皆様方のお力添えにより前期各種競技大会等を大過なく終ることができました。四月からこれまで役不足の理事長を何かとバックアップしてくださいましたこと心から感謝します。九月に入るとロードレース大会等が加わりさらに一層多忙な後期を迎えますが、今後ともよろしくご支援の程お願いいたします。

九月に入ったとはいえ残暑厳しいあり、健康にはくれぐれも留意されたい。なお、裏面に「鹿児島陸協のホームページ」についての投稿を福永理事長室員からいただきましたので、目を通してお活用ください。

## 地域陸協の充実発展を

副会長 末永 政治

鹿児島陸上競技を強くするには、良き指導者が適正配置され優秀な素材を見だして育成していく。それをバックアップするものとして経済的な裏付け、施設設備の充実や有能な審判員の養成などが必須条件であることは今更言わずまでもあります。しかし、指導者や審判員に恵まれ、施設設備が整っていたとしても、それだけでは十分な成果があがることは言い切れません。鹿児島陸上競技を盛り上げていくためには全体的な組織の充実、言い換えれば、地域陸協の組織が強化され、活性化していくことが非常に重要なことではないでしょうか。県の陸協でベストと思われる計画を立てて実施しようとしても、全体的な理解と盛り上がりがない場合は美り少ないものに終わってしまいます。地域陸協が充実していればこそ、優秀な競技者の発掘も容易になります。これまで折りに触れ、地域陸協の組織充実へのお願いはしてきましたが、地域によってはいろいろな事情もあって、全体的には思っているほどには至っていないのが実情のようです。

昨年、ある地域陸協主催の記録会を見させていただく機会がありました。小学生から一般まで多くのアスリートが集い、競技運営の役員をはじめ、すべての審判員が一致協力して競技会を盛り上げておられました。協会の組織づくりの原形をみたような気がしました。何か一つ小さい行事をやって、それを契機に

組織を強化していくのも一つの方法ではないでしょうか。

地域の発展こそが県全体の陸上競技の発展につながる。地域陸協あつてこそその鹿児島陸協だと信じております。地域の組織強化のためにはできる限りのお手伝いをするつもりです。地域陸協と県陸協が心置きなく議論を交わしながら、手を携えて進んでいきたいものです。

## 奄美県を前に

奄美大島陸協会長 平 義隆

昭和二十八年十一月二十五日に奄美が祖国に復帰してから今年で五十年になる。あの当時の群島民の情熱的な復帰運動の熱き思いを再現せんもの、さまざまな行事が展開されている。奄美県もその一つである。ありがたいことに関係各方面の理解と協力があつて実現したと伺っている。我々奄美大島陸上競技協会でも県体の成功に向けて各種の事業を実施している。四月の奄美協理人会で新役員を選出（新会長 平 義隆）し、行事計画を決定。私は、奄美協理人として地区対抗女子駅伝と県一一周駅伝の第一回運営委員会に出席。五月には奄美協理人会・評議委員会に出席した。協会として春夏奄美大島陸上競技大会を開催し、名瀬市中学校陸上競技大会へ審判員としても参加させていただいた。

六月には鹿児島審判部出野清隆先生を講師にお招きし審判講習会を開催した。先生には豊富な審判歴と高度な審判技術それに温かな人柄をもって懇切丁寧な指導をいただいた。その後の大島地区中学校陸上競技大会にも審判員として参加した。

七月に入り、第五十七回国民体育大会第四十四回大島地区大会が、奄美県体と同じ全市町村で開催された。陸上競技は名瀬市で開催され、先の審判講習会の良き実践の場となった。競技面もいくつかの好記録が誕生して関係者を喜ばせた。下旬には初のナイター陸上大会を開催して各方面から注目された。参加者はやや少なかつたが猛暑の奄美ではこの大会の必要性を痛感した。

また、県一一周駅伝の自主本居宿を加計田麻島で実施した。八月に県一一周駅伝第一回強化合宿が行われた。二名の選手が参加してアップダウンの激しいコースで走り込みを中心に行われ、スタミナづくりに励んだ。さらには、八月下旬に奄美大島陸上競技選手権大会を予定している。このように、奄美県体を前に着実に事業を推進している。今後は鹿児島陸上競技協会のご指導を仰ぎ、万全の準備をして十一月三日の大会を迎えたい。ちなみに、大会入口ゲンは「風は南から、あなたが主役、情けあふれる奄美県体」で、キャッチフレーズは「しあわせの潮」

音（県体）である。皆さんの「米島を心から歓迎します」。

## 平成十五年第五十七回国民体育大会

標記大会は、奄美群島日本復帰五十年記念大会として大島地区を主会場に開催される。陸上競技は十一月二日名瀬運動公園陸上競技場で開催される。男子十九種目、女子十八種目に執戦が期待されるが、今回は大島地区からの強い要望で、男子一、米俵かつぎ走が採点種目として採用された。

奄美大島陸協では、審判員二二名、補助員五、名の確保をめざし、審判講習会を開くなど県体開催に向けて着々と準備を進めている。

## 長崎インターハイ

標記大会は、七月二十九日から八月二日まで長崎県かきとまり陸上競技場で開催され、本県からも南九州高校大会で出場権を得た、男子一、種目三十三名、女子十五種目二十五名が出場したが、入賞者なしという本県勢にとっては、厳しいさびしい大会となった。なお、入賞者なしは、昭和四三年以来である。

## 九州中学校陸上競技大会

標記大会は、八月九、十日、熊本県総合運動公園陸上競技場で開催され、本県大会で各種目一位までの代表選手のうち、男子共通砲丸投で川畑友彰（大口南）、女子一年一、米で立山紀恵（有明）、女子低学年八、米ハードルで西郷智香（星華）の二選手が優勝、上位入賞者も多数である。活躍がめだった。

## 全国選手権大会

標記大会は、八月一、十一に開催され、鹿児島高専の濱川博司は、男子一、米（二秒九六）走幅跳（七米三四）、四、米リレー（四秒七三）の三種目に優勝し気をほいた。「第三回全国マスターズ陸上選手権大会」標記大会は、来年度（平成十六年度）本県で、一月二十、二十四日の日程で開催されることが決定した。約二、三名の参加が予想されますが、競技会運営には陸協の力が必要です。皆さんのご協力をお願いいたします。

## 鹿児島だより

### 強化部

本県を代表して出場する各駅伝競走大会のチーム総監督については、前回お知らせしましたが、この度各代表チームの監督・コーチ等スタッフが次のとおり決定しました。

\*九州一周駅伝競走大会

総監督 神ノ門 均（指宿商高教）

監督 岩元 慎一（第二大教）

田中 行夫（自衛隊国分）

桑迫 千尋（光輝尚事）

下御領重夫（九州富士通）

持留 光一（大隅町役場）

\*全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

総監督 上岡 貞則（鹿実高教）

監督 池田 猛（阿久根中教）

〇丁チ 池畑 辰也（出水高教）

前田 浩文（樟南高教）

立迫 俊徳（喜入中教）

岩下 邦浩（大浦中教）

松嶋 修一（青戸中教）

\*全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

総監督 福永 一則（鹿児島高教）

監督 高山 克司（帖佐中教）

〇丁チ 有川 哲蔵（神村学園教）

年永 昭人（鹿児島高教）

茂岡 泰弘（鹿屋東中教）

庶務 長谷川博子（久志中教）

本県は駅伝等に積極的に取り組む企業も少なく、各大会での厳しい戦いが予想されるが、県が駅伝の中で最も期待している各大会でもあつて、総監督を中心としたスタッフ・選手諸君の健闘を大いに期待するとともに、関係者各位の万全バックアップをお願いいたします。

## 審判部

本協会では、かねてから懸案でありました競技技術と指導法並びに競技審判技術の向上を図るために日本陸連から講師を招へいし、九月六日（土）午前一時から午後四時まで伊集院陸上競技場で講習会を開催しました。審判員、指導者並びに選手等多数参加し、有意義な講習会となりました。

## 全国I・H・I・C、国民体育大会

等での入賞を図るために、普及・強化に力

を注ぎ